ファイル修正時のフロー

# 正式リリース版のフォルダ構成

[\\grcore.com\PTCS\Open\40.組織\21.技術本部\30.機電技術部\100.教育研修G\10\_社外向け研修\02\_入社前C言語研修\01\_研修コンテンツ\01\_正式リリース版](file:///\\grcore.com\PTCS\Open\40.組織\21.技術本部\30.機電技術部\100.教育研修G\10_社外向け研修\02_入社前C言語研修\01_研修コンテンツ\01_正式リリース版)

上記フォルダは、常に最新版ファイルのみが格納されている状態にする。編集中のファイルは「03\_作業用フォルダ」 過去のRevisionは**「**02\_過去Rev（履歴管理用**）」**へ格納する。

01\_入門編

└01\_1\_入門編（C言語で広がる世界）\_Rev\_1\_0.pptx

└01\_2\_入門編（論理数学）\_Rev\_1\_0.pptx

02\_基礎編

└02\_基礎Ⅰ（１／２）\_Rev\_1\_0.pptx

└03\_基礎Ⅰ（２／２）\_Rev\_1\_0.pptx

└04\_基礎Ⅱ（１／２）\_Rev\_1\_0.pptx

└05\_基礎Ⅱ（２／２）\_Rev\_1\_0.pptx

03\_応用編

└06\_応用\_Rev\_1\_0.pptx

04\_接続マニュアル\_インストール手順

└08\_Visual Studio Code インストール手順書\_Rev\_1\_0.pptx

└08\_Visual Studio Code インストール手順書\_Rev\_1\_0.pptx

└09\_VNC接続マニュアル\_Rev\_1\_0.pptx

05\_確認テスト

└10\_確認テスト（基礎Ⅰ、基礎Ⅱ）\_Rev\_1\_0.docx

なお、2022年8月9日時点で上記フォルダに格納されていたファイルをRev\_1.0とし、

それ以前に作成したファイルはRevision管理外とする

# ファイル修正時のフロー

## Redmine上でチケット発行。編集開始を宣言

下記内容で、該当プロジェクトにてチケットを発行する

-----------------------------------------------------------------

トラッカー：Revison

題名：ファイル名\_Rev〇への更新

説明：変更内容の概要

ステータス：New

優先度：Normal

担当者：自身を選択

Revision変更時のルール

□ fileを更新する際のrevision番号

■ major番号の更新

- 大がかりな改訂。例えばslideの追加や削除など。

■ minor番号の更新

- 細かな修正。誤字脱字の修正。ナレーション原稿の言い回しの変更など。

## ファイルのRevisionを上げて、作業用フォルダへファイルを格納

正式リリース版 フォルダ内のファイルを開き、「名前をつけて保存」を実行

作業用フォルダにRevisonを上げて保存

[\\grcore.com\PTCS\Open\40.組織\21.技術本部\30.機電技術部\100.教育研修G\10\_社外向け研修\02\_入社前C言語研修\01\_研修コンテンツ\03\_作業用フォルダ](file:///\\grcore.com\PTCS\Open\40.組織\21.技術本部\30.機電技術部\100.教育研修G\10_社外向け研修\02_入社前C言語研修\01_研修コンテンツ\03_作業用フォルダ)

Redmine上のステータスを”In Progress”へ変更

## 変更ファイルを正式フォルダへ移動

編集が完了したファイルを「01\_正式リリース版」フォルダへと格納。

旧Revisionとなったファイルを「02\_過去Rev（履歴管理用）」へと移動させる

## 変更ファイルのアップロード

変更を行ったファイルをe-learningシステム（Air Course, PALMS）へアップロードする

Redmine上のステータスを”Resolved”へ変更

## Redmine チケットの最終更新

ステータスを"Closed"へ変更

# -----------------------検討事項----------------------------

パッケージのリリースと改訂の関係性

↳常に修正したファイルを各e-learningシステムへアップロードすれば、  
パッケージ管理は不要。  
微修正時もアップロードを行う為、工数は増加

↳改訂とリリースにルールを設ける場合は、別途、パッケージ管理用のファイルやRedmineのチケット発行が必要。

アップロードの手間は上記と比べ減少

**パッケージの管理案**

□ packageをreleaseする際のrevision番号

■ major番号の更新

- 大がかりな改訂を行ったfileを含む場合。

- releaseの際 minor番号のみを更新したfileがある場合、その更新を含めてもよい。

■ minor番号の更新

- 細かな修正であるが、緊急にreleaseすべきfileがある場合。

- releaseの際 minor番号のみを更新したfileがある場合、その更新を含めてもよい。

packageのreleaseにどの改訂/修正を含めるかについては、関係者で協議